

平成 2 6 年 6 月 2 1 日現在

機関番号 : 3 5 4 0 5

研究種目 : 若手研究(B)

研究期間 : 2011 ~ 2013

課題番号 : 2 3 7 1 0 3 0 0

研究課題名 (和文) 南アジアにおける宗教教育の達成度に関する公式・非公式教育システムをめぐる比較研究

研究課題名 (英文) Religion and Educational Development in South Asia: A Cross-national Comparison between Reformed and Unreformed Islamic Religious Schools

研究代表者

カビル モハマド・フマユン (KABIR, MD HUMAYUN)

広島女学院大学・総合研究所・客員研究員

研究者番号 : 5 0 5 9 6 7 7 3

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 2,400,000 円、(間接経費) 720,000 円

研究成果の概要 (和文) : 本研究の目的は、バングラデシュ、インドそしてパキスタンのムスリム社会において、イスラーム宗教学校 (マドラサ) が、教育課題解決の促進にどの様に潜在的に関与しているのかを調査するものであった。複数の国における状況を比較する事により、南アジアでのムスリムの社会生活におけるマドラサの意味を研究するものであった。この研究により、教育の文化的価値が、マドラサの順応性における大きなインパクトを持ち続けている事が判明した。また一方では、国が主導するこれらの学校への近代化政策は、マドラサにおける人間開発に関する意向と、国による教育制度との違いにより、未だ成功とは言えない状況である事も判明した。

研究成果の概要 (英文) : The objective of the research was to investigate Islamic religious schools', known as madrasa, potential contribution to accelerating educational attainments among Muslims in Bangladesh, India, and Pakistan. With a cross-country comparative perspective, the research looked into the meaning of madrasas in Muslims' social lives in South Asia. The findings suggest that cultural merit of education continues to have profound impact on the adaptability of madrasas. On the other hand, states' reform initiatives to modernize these schools are yet to be successful due to the gap between the notion of human development promoted by the madrasas and by the national education system in each country.

研究分野 : Area Studies

科研費の分科・細目 : 南アジア

キーワード : マドラサ ムスリム 南アジア 教育の発展

1. 研究開始当初の背景

この調査は直近の3年間にわたり行われた(2011年度から2013年度)。当初の計画ではこの調査はバングラデシュ、インドそしてパキスタンの3カ国で行われる予定であり、バングラデシュとインドではいくつかのフィールドワークが行われた。

しかしパキスタンにおいては安全上の問題、並びに当国におけるマドラサを取り巻くセンシティブな状況を鑑み、フィールドワークを行う事はできなかった。また私は東京のパキスタン大使館へビザ申請を行っていたが未だ発行にはいたっておらず、その理由もありパキスタンでのフィールドワークは不可能であった。

2. 研究の目的

本研究は、バングラデシュ、インドおよびパキスタンで、マドラサとして知られているイスラム学校の多様性および変化を明らかにすることを旨とするものであった。本研究の第一の目的は、イスラム諸国間における改革派／非改革派それぞれのマドラサを比較し、教育上の課題に直面する南アジアにおいて、宗教教育が有力なプロバイダとなりえる可能性を検討することであった。教育は社会変動および人間の能力開発の鍵であり、ミレニアム開発目標(MDG)と万人のための教育は、良好な教育環境なしでは達成することができない。これまで、概して宗教(それは地球中の何百万もの国民の生活に影響を及ぼす)は、しばしば開発発展に対して否定項と見なされてきた。だが歴史上、宗教組織は、最も初期の人間の文明における教育制度のいくつかの形式のひな形を提供している(ワトソン 2003)。南アジアの教育的な生活への宗教のインパクトを考慮

に入れ、本研究が目指したのは、宗教教育が開発途上国の教育課題に対応する上でどのような潜在的セクターとなりえるかを、持続的調査に基づく共通の開発アジェンダの俎上において明らかにすることであった。

このような教育課題への対応を遂行する際に、NGOの教育機関のような独立した教育セクターは、容易に教育機会にアクセスできない人々に手を差し伸べる重要な教育支援とみなされている。一方、宗教に基づいた教育機関は、多くの地域コミュニティに非常に強いネットワークと影響力を持つにもかかわらず、ほとんど考察の対象になってこなかった。本研究では、現在大きな社会変動を経験しているバングラデシュ、インド、およびパキスタンという南アジアの3か国を事例として取り上げ、各社会でイスラム教に基づく教育機関としてのマドラサが果たしている役割について、総合的な調査を行った。

3. 研究の方法

パキスタンのマドラサに関する調査は、パキスタン政府による様々な報告書や政策文書等といった二次資料を用いて行った。一方、バングラデシュそしてインドでのフィールドワーク調査では、政府から承認されたマドラサ並びに非承認(非公式)マドラサ両者の、教育委員会に対する調査を行った。(例えば「Dhaka Aliya Madrasa Board」、「Befaqul Madrisil Arabia Bangladesh」等。)さらにこの調査の一環として、バングラデシュの様々なコミュニティのマドラサを訪問し調査を行った。

本研究の初年度には、インドのニューデリーとラクナウの二地域においてフィールド・ワークを実施した。それらの地域において、

学校教育に携わる複数の公的組織とイスラーム宗教学校（マドラサ）への現地調査を実施した。このフィールド調査資料に依拠し、現在、非公式のイスラーム学校に見られる宗教性の存立構造について検討を深めると共に、それらが現代インドの近代的・世俗主義的な学校教育機関とどのように競合／共存しうるのか、というテーマのもとに論文を執筆した。これにより、これら非公式の教育機関に対しては形式上の承認のみが与えられているにもかかわらず、いくつかの大学は、ジャミア・ミリア・イスラミア大学やジャワハルラル・ネルー大学のような公立大学の入学試験の受験資格をもつ学生として受け入れていることが分かった。さらに、さまざまな宗教集団と諸派閥がインドにおいていくつかのイスラーム学校を運営しているという事実も判明した。州ごとに状況が異なっているにもかかわらず、インド政府はこれらの機関を対象とした改革に着手している。またラクナウを拠点とするウッタール・プラデシュ州にある「マドラサ教育協議会」への訪問中、コミュニティ・レベルの教育施設を州政府の望む形で改革へ導くための、州によるイスラーム宗教学校支援という最近の試みを調査した。

4. 研究成果

一般的に、南アジアには二つのタイプのマドラサが存在する。一つは国の支援を受け部分的もしくは完全に改変されたもの、他方は改変されていない、独立したマドラサである。この両者は共に、数多くのムスリムの基礎教育に大きく関与している。

またこの両者のマドラサは共通した特徴を持ち、それらは、a：これらのマドラサは、社会的不平等という文脈におけるムスリムコミ

ュニティの文化的価値であると見なされている事、またb：それぞれの国による非承認(非公式)マドラサに対する改変の動きは、これらマドラサが持つ人間開発に関する意向(文化的・経済的利益両者への志向性を持つ)と、近代的教育制度との違いにより成功していない事、この二つの特徴である。b：に関しては、マドラサが文化的利益、経済的利益の両者を志向する一方で、国による近代的教育では、合理主義的な経済利益そして唯物論的な価値観が、スピリチュアルな教義的価値観よりも重視される。この教育哲学の違いを考慮せずして、マドラサの改変スキームが成功する事はないであろう。

今後のマドラサに対する調査研究では、またすべての宗教的教育では、教育の経済価値における文化的な視点も強調されるべきである。教育による経済的リターンだけではなく、文化的価値並びにコミュニティにおける文化的経済活動という視点も考慮されるべきである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① HUMAYUN KABIR, *Education, Nationalism, and Conflict in Plural Society in Nepal: Terai Region in the Post Maoist Context*, Discussion Paper Series, Vol.19 (March), Hiroshima: Hiroshima University Partnership Project for Peacebuilding and Capacity Development, 2013, pp. 1-30, (not-peer reviewed)
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hipec/ja/products/dp/dpvol19.pdf>

- ② Momotaj Begum and HUMAYUN KABIR, “Reflections on the Deobandi Reformist Agenda in a Female *Quomi* Madrasa in Bangladesh”, in *South Asia: Journal of South Asian Studies*, Vol. 35, no.2 (special supplement issue), 2012, pp. 353 – 380 (Monash University, Australia: Routledge) (peer-reviewed).

<http://dx.doi.org/10.1080/00856401.2012.659650>

- ③ HUMAYUN KABIR, *The Rise of New Regional Political Force in Madhes and Its Consequence in Post-Conflict Nepal*, Discussion Paper Series, Vol. 15 (May): Hiroshima: Hiroshima University Partnership Project for Peacebuilding and Capacity Development, 2012, pp. 1 – 22, (not-peer reviewed)

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hipec/ja/products/dp/dpvoll15.pdf>

- ④ HUMAYUN KABIR, *Reflection on Muslim Minority's Demands in "New Nepal"*, Hiroshima: Hiroshima University Partnership Project for Peacebuilding and Capacity Development, 2011, pp.1-14. (not peer-reviewed)

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hipec/ja/products/dp/dp9.pdf>

〔学会発表〕 (計 1 件)

- ① HUMAYUN KABIR, “Muslims’ Education in India: Patterned Religious-Cultural Norms and Social Disparity in a Community in Hapur District, Uttar Pradesh.” *The 26th*

Annual Meeting of the Japanese Association for South Asian Studies (JASAS), Hiroshima University, Oct. 5 – 6, 2013.

〔図書〕 (計 3 件)

- ① HUMAYUN KABIR, “Beyond Jamaat-e-Islami: The Political Rise of the Local Deobandis, the Mystic Leaders, and Islamism in Bangladesh.” In *Islam and Democracy: Prospects and Pathways*, eds, Ingrid Mattson, Paul Nesbitt-Larking and Nawaz Tahir, Newcastle: Cambridge Scholars, 2014, (accepted, forthcoming) (peer-reviewed).

- ② HUMAYUN KABIR, “Politics of Islam, the State, and the Contested Cultural Identity: Ulama’s Activism in Postcolonial Bangladesh,” *Marased 2*, a scholarly peer-reviewed pamphlet, Alexandria, Egypt: Bibliotheca Alexdrina Futuristic Studies, 2012, pp.1 – 42, (Peer-reviewed).

http://www.bibalex.org/publications/ba_publications_en.aspx

- ③ HUMAYUN KABIR, “Contested Notions of Being ‘Muslim’: Madrasas, Ulama and the Authenticity of Islamic Schooling in Bangladesh”, In *The Moral Economy of Madrasas: Islam and Education Today*, eds., Keiko Sakurai and Fariba Adelkhah, 2011, pp. 59 – 84 (London: Routledge), (Peer-reviewed).

〔その他〕 (計 9 件)

- ① 梗概集、レビュー

HUMAYUN KABIR, transl. Tatsuya Kusakabe, "Madrasa Education in Pakistan: The Reform Question", in Japanese, In *Right to Education in South Asia*, ed., Fumiko Oshikawa, 2014, Kyoto: Kyoto University Press (accepted, forthcoming).

② 国際学会等でのプレゼンテーション

HUMAYUN KABIR, "Custodians of Muslim Identity: Islam, State and the Ulama in Bangladesh", The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) with The Japanese Society of Cultural Anthropology Conference, Chiba, Japan, May 15 - 18, 2014.

③ 国際学会等でのプレゼンテーション

HUMAYUN KABIR, "From Piety to Politics: What Causes the Political Rise of Madrasa Custodians in Contemporary Bangladesh." The 3rd International Congress of Bengal Studies, University of Calcutta, Kolkata, India, Nov. 19 - 22, 2013.

④ 国際学会等でのプレゼンテーション

HUMAYUN KABIR, "Religion, State and Education in Bangladesh: Transformation and Resistance of Recognized and Unrecognized Islamic Religious Schools", paper presented at the 8th Biennial Conference of the Comparative Education Society of Asia (CESA) on *Education at the Dawn of the New Decade: When the Quality and Sustainability Movements Converge*, Faculty of Education, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand, July 8 - 11, 2012.

⑤ 国際学会等でのプレゼンテーション

HUMAYUN KABIR, "Demarcating the Right to

Deliver *Fatwa: Ulama's* Resistance against and Contestation over Constitutional Law in Bangladesh", paper presented at the *Third International Conference on Islam*, at the University of Wisconsin-Madison, organized by Global Studies, University of Wisconsin-Madison, USA, April 13 - 14, 2012.

⑥ 国際学会等でのプレゼンテーション

HUMAYUN KABIR, "Beyond Jamaat-e-Islami: The Political Upsurge of the Deobandi Ulama and the Competitive Political Frontiers of Islam in Bangladesh", paper presented at the International Conference on *Islam and Democracy: Potential and Possibilities*, University of Western Ontario, Canada, March 23 - 25, 2012.

⑦ 国際学会等でのプレゼンテーション

HUMAYUN KABIR, "The Political Visibility of Deobandi Islam and the Contested Religious Authorities: Islam, the State and the Ulama in Bangladesh", paper presented at *Muslim Religious Authority in Contemporary Asia*, Asia Research Institute, National University of Singapore, Singapore, Nov. 24 - 25, 2011.

⑧ 国際学会等でのプレゼンテーション

HUMAYUN KABIR, "Democracy, Religion and the State in Bangladesh: Frontiers of Mobilized Islam and the Religious-Cultural Contestation and Conflict", paper presented at the International Conference on *Peace from Disasters: Indigenous Initiatives across Communities, Countries and Continents*, organized by the Hiroshima University Partnership Project for

Peacebuilding and Capacity Development (HiPeC) jointly with the Center of Excellence (COE) of the University of Tokyo, Hiroshima, Sept. 18 - 19, 2011.

⑨ 国際学会等でのプレゼンテーション

HUMAYUN KABIR, “Islamic Schools and Contested Muslim Identity in South Asia: The Cases of Bangladesh and Nepal”, paper presented in the *International Conference on Religion and Spirituality in Society*, University Center, Chicago, Illinois, USA, organized by Common Ground and Religion & Society, supported by College of Education, University of Illinois at Urbana-Champaign, USA, Feb. 15 - 17, 2011.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

カビル モハマド・フマユン (KABIR, MD HUMAYUN)

広島女学院大学・総合研究所・客員研究員
研究者番号： 5 0 5 9 6 7 7 3

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし